

介護実習における介護過程の展開とレクリエーション支援の関係性について

○南條正人〔東北文教大学短期大学部〕 高崎義輝〔仙台大学〕 金須雄一〔東北文教大学短期大学部〕
森田清美〔東北文化学園大学〕 小田幹雄〔東北文化学園専門学校〕

キーワード：介護実習、介護過程、レクリエーション支援

I. はじめに

I-1 介護福祉士養成におけるレクリエーションについて

2007年の社会福祉士及び介護福祉士法の改正において介護福祉士の定義規定の見直しが行われ、介護福祉士は「身体上又は精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者につき心身の状況に応じた介護等」となった。また、2009年の介護福祉士養成カリキュラムの改定において、介護に関する科目の充実が図られ時間数も拡充された。その1つに「コミュニケーション技術」という科目設定が行われ、介護を展開する上で必要不可欠なコミュニケーションスキルを向上させるための教育が重要視された。これらにより、「社会福祉援助技術論」や「社会福祉援助技術演習」は新たな科目の一部に組み込まれ、「レクリエーション」という名の付く科目が削除された。しかし、渡辺¹⁾によれば、生活を支援することは「その人の幸福追求への支援も含まれていなければならない」、「よりよく生きる」ための支援」としており、一般的に、加齢によって睡眠時間等の生理的に必要な活動や余暇等の活動時間が増加すると考えられることから、「よりよく生きる」ための余暇の活動時間に関する支援が重要であると考えられる。

I-2 介護過程について

厚生労働省のカリキュラムにおける介護過程のねらいは、「他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切なサービスの提供が出来る能力を養う学習とする」である。このことから、介護過程の授業を担当する教員だけではなく、他の科目を担当する教員間の連携と各段階における介護実習のコンセンサスが必要不可欠である。

そのコンセンサスを得た介護実習は、介護福祉士養成課程における履修科目の中で大きなウエイトを占めている。介護福祉士養成課程においては、介護実習をいくつかの段階に分けて実施し、最終の介護実習では、利用者1名を担当させていただき、客観的で科学的なエビデンスに基づいた介護過程を展開している。この介護過程の展開においては、厚生労働省が示した介護過程のねらいにあるように、他の科目で学習した知識や技術を統合して展開されることから、様々な知識や技術が用いられている。その知識や技術の1つとして、レクリエーション技術が用いられることもある。

I-3 研究目的

介護福祉士養成課程かつ日本レクリエーション協会の課程認定校の介護実習における総合的な実践を研究成果として総括した卒業論文集または事例報告書から、介護過程の展開におけるレクリエーション支援の介入の実態を明らかにしたい。

